

Element of 幻体

脚本：関島真頼 / 作画監督 キャラ：鎌田祐輔 メカ：有澤 寛 /
絵コンテ：寺岡 巖 / 演出：工藤寛顕 / 初回放送日：06/05/11

Meta-Body

【あらすじ】

舞浜の廃墟に現れた機体には人の形をした敵が居た。シズノはそれを作り物だと言う。キョウは善戦するが、ガルダを自爆に追い込んだ敵機にゼーガのデータを奪われてしまう。燐光を散らして消えるシズノの半身と自分の腕とを見てキョウは慄く。そこに現れた新たなゼーガが敵を駆逐した。

舞浜で目を覚ましたキョウの腕は元通りだった。答えを求めるキョウは自分が幻体であるとAIに知らされる。舞浜の町も人も作り物だと言うのだ。リョーコと語らう中、キョウは東京へ行こうと思いつく。だが列車は舞浜に戻り外には出られない。シズノはキョウに、舞浜市は量子サーバー内の仮想空間であり、生物としての人類はガルズオルムに滅ぼされたと告げた。

【登場人物・メカ】

● **クリス、アーク** 「ま、俺には見慣れた光景だな」

黄色い光装甲を纏う**ゼーガペイン・フリスベルグ**のパイロット。

● **アビス、シン**

ガルズオルムの復元者。**コブラル**を駆り数多のセレブランドを葬った魔戦士。援軍として駆けつけたクリスにより2機まとめて撃墜された。

【チェックポイント】

□ 「幻体」というサブタイトルが出るタイミング。言葉自体は1話から毎回のように登場している。量子データ化された人間のこと。

□ キョウ「なめんなよ、千葉県民を！」

□ キョウとレムレスの哲学問答「コギト・エルゴ・スム」「我考える、故に我あり。ここでデカルトはベタ過ぎる！」「存在するとは知覚されることである」「バークリーも古い！うぜえ！」「悲しみは知識。多く知るものは恐ろしい真実に深く嘆かざるを得ない」「パスカルか」キョウの聡明さはここで示される知識というより、返答の的確さの方にある。

□ シズノの再構築を見守るクリスの台詞とアークの反応。

□ EDへ入るあたりの演出、キョウの視界に虫（bug）とノイズ。

□ 6話にシマは登場しないが6話の予告はシマが読んでいる。